



時事評論家 増田俊男

ドル防衛と金価格 アメリカの死活問題

アメリカの経済も政治もドルに依存している。

ドルを支えている二大要因がある。その第一はドルが今なお主要通貨であること、第二は中東原油の主要取引通貨がドルであることである。(ペトロダラー)

ドルが基軸通貨である恩恵とは第三国間の貿易取引通貨がドルであるため第三国はドルを買って決済するので取引高に応じてドル需要が増大する。

中東原油がドルで取引されるため中東原油の売り上げが即ドル需要になる。

この二つの要因に支えられてドル需要は限りなく増大化しアメリカの潜在的財政綻救状態による対ドル減価をカバーしているのである。

今この二つのドル支援要因が危機にさらされようとしている。

今年 IMF (国際通貨基金) 改革を米議会が承認すれば中国の人民元が IMF の SDR (特別引出権) の四大通貨 (ドル、ユーロ、ポンド、円) に加わる。現在 IMF の発言力はアメリカが No.1 で拒否権を持っているが、発言力は GDP に比例する出資金高で決まるので GDP でアメリカ (購買力平価で約 17 兆ドル) を抜いた中国 (約 18 兆ドル) の発言力が高まり人民元の世界シェアがドルに接近する可能性が出てくる。

アメリカの原油・天然ガスの増産が続き 2017 年自給、2020 年世界最大の輸出国になり現在の中東原油依存は解消されるので OPEC (中東石油輸出国機構) の原油取引通貨はドルに縛られなくなる。こうして近い将来ドルを支えてきた二本足 (ドル基軸・中東ペトロダラー) が消滅しようとしている。

アメリカは 2020 年の世界エネルギー支配を達成するまで FRB の金融政策でアメリカの命綱ドルを防衛しなくてはならない。

金価格暴落作戦

1 オンス 1,200 ドル台から下げ気味であった NY 金が 7 月 20 日 寄りきと同時に米系ヘッジファンドが約 5 トン分の空売りを掛けたため 4% 急落、1,080 ドルまで下がった。7 月 9 日 中国株を売り叩いて 1 日で 28% 下落 (上海総合で 3,700 ポイントまで下げた) させた同じ米系ファンドの仕業である。

FRB がアメリカの命綱のドルを防衛するのは当然だが、米系大手ヘッジファンドも手持ち資産はドル資産だからドルを守るとは死活問題であり FRB と利害が一致している。6 月中旬から 7 月 9 日まで中国株を暴落に誘導して中国政府の市場規制と価格操作を引き出すことでアメリカ議会に IMF 改革 (人民元の SDR 通貨入り) 不承認理由を与え、ドル衰退の反対軸 (ドルが下がれば金が上がる) の金価格を暴落させることでドル支援二大要因消滅リスクによるドルの衰退を食い止めようとしたのである。

独占資本 (ロスチャイルド) の手先のゴールドマン・サックスが金価格は 850 ドルになると囁す理由がお分かりになっただろう。

金相場の売り買いのタイミングは「ここ一番！」と「目からウロコのインターネット・セミナー」でお知らせします。

増田俊男の「目からウロコのインターネット・セミナー」大好評配信中！

1ヶ月わずか約¥1,000！ご契約は1年単位になります

現在大好評配信中！「目からウロコのインターネット・セミナー」！視聴期間はお申込み翌月より12ヶ月となりますのでお申込み月は無料でご視聴頂けます。1か月の平均配信回数は4~6回になります。詳しいご案内、お申込みについては増田俊男事務所 (Tel: 03 3955-6686、HP: www.chokugen.com) まで。